平成２７年度　共同生活援助事業所ぴあ 事業実績報告書

（共同生活援助事業）

第１　総括

共同生活援助事業所（グループホーム）ぴあは、地域社会との結びつきを重視した事業運営を行うとともに、その人らしい生活が送れるよう、ご利用者が希望する自立生活に合わせた日中活動、生活、余暇等のバランスに配慮した支援に努めました。

特に、ご利用者個々の尊厳や生きがいをもって暮らすことを目的として余暇活動に重点を置いた町内外の社会資源を活用する支援サービスと社会参加の推進に努めました。

また、ご利用者に対する支援の質の向上と安定的な事業運営を図るために、ご利用者個々の障害支援区分の見直しを進め、ご本人の障がい程度に沿った内容に変更されるとともに、平均障害支援区分が３．２となる報酬体系となりました。

なお、以下の８点を重点項目として支援サービスを展開しました。

１　個別支援計画の充実化

個別支援計画の作成では、ご利用者との面接を基本にアセメントを作成し、ご本人の抱える課題を整理した中で、ご利用者一人ひとりの障がい特性とニーズに配慮した計画書となるように進めました。

２　生活支援の強化

生活支援は、ご利用者の障がい特性に応じた、相談、食事の提供、健康管理、金銭管理の支援、入浴・排泄等の個別介護などによる基本的な日常生活動作の維持向上に努めました。

３　共同生活住居の改修及び設備保全

ご利用者が安全かつ安心して地域生活が送れるように、「共同生活住居ぴあ」の改築及びオール電化の整備を社会福祉法人清水基金様の補助金を受けて実施完了しました。また、他の共同生活住居についても必要に応じて修繕等の対応を行いました。

４　防災対策の強化

火災及び災害を想定した避難訓練を各共同生活住居毎に実施するとともに、緊急時等に適切な支援対応が出来る様に食品や備品などの貯蔵品整備を図りました。

５　クラブ活動等の充実化

ご利用者の生きがいや社会参加の一環として、町内外のイベントと社会資源を活用したご利用者一人ひとりが楽しめると共に人生の活力となるクラブ活動を企画実施しました。

６　食事の質の向上

ご利用者に提供する食事は、嗜好調査の結果を受けて、メニューの改善を図るとともに、食の満足感と栄養価のバランスの取れた食事提供に努めました。また、今年度よりご利用者の誕生日や季節の行事等においては、ケーキなどを提供し多彩な食事となるよう努めました。

７　研修体制の構築

ご利用者に対する人権擁護の意識の向上の徹底を図るとともに、援助技術力の向上や虐待防止のための外部研修会への参加や内部研修会等を開催推進しました。

８　経費節減の対策

事業運営に関わる消耗品や経費については、予算の計画的な執行と備品管理の徹底に努め効率的な対応を図りました。

また、各共同生活住居（ホーム）の電気料金の削減を図るために、照明器具のＬＥＤ整備を行い、費用節減を強力に推進しました。

第２　組織と利用者状況

（１）職員配置状況（平成２８年　３月３１日現在）

事業の円滑な運営と支援サービスの適正化を図るために、次の職員配置で進めました。

区　分	管理者	サビ管	生活支援員	世話人	総務	計
男　性	１	１（１）	４			６（１）
女　性			５	１５	（３）	２０（３）
計	１	１（１）	９	１５	（３）	２６（４）

※（　　）は兼務職員

第３　利用者の状況（平成２８年３月３１日現在）

（１）各共同生活住居における利用状況

区　分	ぴ　あ	えーる	はるか	ういんぐ	あゆみ	らいふ	あおば	ひかり	なごみ	合計
男　性	５	４			１		６	４	２	２２
女　性			６	６	３	５				２０
計	５	４	６	６	４	５	６	４	２	４２

（２）障害支援区分等

区　分	障がい程度（療育手帳）			障害支援区分							
	A	B	計	非該当	１	２	３	４	５	６	計
男　性	４	１８	２２	０	０	５	１３	４	０	０	２２
女　性	７	１３	２０	０	０	２	８	８	２	０	２０
計	１１	３１	４２	０	０	７	２１	１２	２	０	４２

（３）年齢別

区　　分	～20 未満	20～ 29	30～ 39	40～ 49	50～ 59	60～ 69	70 以上	最高年齢	最少年齢	平　均
男　　性	０	４	４	２	６	５	１	70 歳	23 歳	47.8 歳
女　　性	０	０	２	６	６	６	０	67 歳	35 歳	53.0 歳
計		４	６	８	１２	１１	１			50.4 歳

（４）障がい別

区　分	てんかん	自閉傾向	統合失調症	身体障がい	ダウン症	視覚障がい	聴覚障がい	内部疾患	体幹機能	強度行動障がい	心因反応	その他
男　性	１		４				１					
女　性	４		３	１		１						
計	５		７	１		１	１					

第４　事業内容

部　名	分署名	事　　業	事　業　内　容
事務部門	事　　務	事務処理の効率化	法人各施設と連携し効率的な事務処理に努めました。
		金銭管理の徹底	預り金の取り扱いは、連携施設と連携して情報を綿密に適正に行いました。

		施設管理と整備	共同生活住居ぴあのオール電化改修工事を実施し、各ホームの適正な維持管理に努めました。
		職員・ご利用者の健康管理	年２回（職員は年１回）、定期健康診断または生活習慣病検診を実施するとともに、ご利用者の疾病に応じて適宜通院支援を実施しました。
		個人情報の保護	ご利用者の個人情報については適正に取り扱うとともに、データ等の管理を徹底しました。
		防災体制など	定期的に防災訓練若しくは避難訓練を実施するとともに防災委員会をとおして、備蓄品の見直しや緊急時の体制などの確認を行ないました。
支援部門	生　活	個別支援計画の作製と実施	個別支援計画の作成に関しては、ご利用者との面接を基本としてアセスメントを行い、計画の実施にあたっては、ご利用者並びにご家族の同意を得て進めました。 また、サービスが適切に提供しているかを検証するために半年に一回のモニタリングを実施しました。
		生活支援の充実	日々の巡回支援をとおして、ご利用者の障がい特性や生活リズムに配慮した生活支援に努めました。
		共同生活住居の保全	ご利用者の多様なニーズに対応すべく、必要に応じて生活住居の修繕や保全に努めました。
		苦情及び相談	ご利用者からの希望等については、即応対応を行うとともに、生活面や支援状況に関する意見に配慮した援助に努めました。
		クラブ活動等の推進	町内外の社会資源を活用し、多様なクラブ活動プログラムを提供しました。また、地域行事や町内会活動等にも積極的に参加することで、ご利用者の社会参加を促進しました。
		余暇活動支援	ご利用者の希望を踏まえ、個別、グループ、各共同生活住居単位の活動を企画実施しました。また、自治会活動についても側面から支援を行ない、本人主体の事業運営となるよう取り進めました。
		衛生健康管理	標準的な予防策を中心に適切な衛生管理対策に努めました。また、ご利用者の医療情報を集約したカルテを作成し各職員が情報共有が出来るよう書類の整備を進めました。
		高齢ご利用者の生きがい対策	高齢のご利用者を対象に年齢に応じたゆとりのある外出を企画実施し、生きがい対策を推進しました。
		地域移行	共同生活住居からの自立を希望するご利用者に対して、個別支援計画に基づき、適切に支援を行いました。
		経費節減	費用の節約を目的として各共同生活住居の照明器具のＬＥＤ化を整備しました。
		虐待の防止	虐待防止委員会を中心に虐待防止に関する内部研修やチェックリストの活用を行うとともに、外部研修会の参加、掲示物等による啓蒙活動も積極的に行い虐待の防止に努めました。
		他事業所との連携	就労支援施設や職場実習先の企業等と連携し、包括的な支援に努めました。
		食事提供	ご利用者の食事について、栄養バランスのとれた食事となるよう栄養士が作成した献立表に基づき提供を行いました。また、季節に応じた食材提供やご利用者の誕生日に合わせた行事食等、楽しみをより一層感じていただけるような雰囲気作りに努めました。

第５　職員の研修、研究体制

（１）関係機関の主催する各研修会等の参加は次のとおりです。

研修事業名	参加職員	参加延人数
日本・北海道知的障害福祉協会 北・北海道知的障害福祉協会	所長、支援員、世話人	５名
その他	支援員	３名

（２）事業所主催による研修会は次のとおりです。

研修名	開催回数	参加延人数
新任職員研修	６回	８名（生活支援員）
自主研修会（スタッフ研修）	１回	２２名（生活支援員、世話人）
内部研修会	３回	２４名（生活支援員、世話人）
階層別研修	１０回	２０名

第６　年間行事実績

平成２７年度の年間事業実績は、別紙１のとおりです。